




学位論文審査の要旨

受理番号	第 363 号	氏名	作間 健彦
審査委員氏名	主 査	園田 英 俊	
	副 査	関根 秀 孝	
		山森 淑 嗣	
			印
			印

論文題名	印象材の硬度が作業用模型におけるアナログの変位に及ぼす影響 －インプラント体レベル印象での検討－
------	---

論文審査の要旨(1,500字程度)

研究目的、研究方法、研究結果、考察・結論を簡潔に記述し、これらに対する審査の経過と結果を簡潔、明瞭に記載してください。

研究目的

インプラント補綴治療後の長期的機能維持には適合良好な上部構造が必須であるため、種々の検討がなされてきた。印象採得における印象材の選択では、印象用コーピングのアナログ連結時の変形防止などを目的に硬度の大きい印象材が推奨されてきたが、厳密なブロックアウトの必要性、撤去時における患者の苦痛を考えると使用しにくいことも多い。よって当講座では、まずアバットメントレベル印象において印象材の硬度が作業用模型の精度に及ぼす影響を実験的に検討してきた。本研究では、インプラント体レベル印象において印象材の硬度が作業用模型におけるアナログの再現性に及ぼす影響を検討することを目的とした。

材料と方法

基準模型としてステンレス製の金型を製作した。金型上面の中央部にインプラント体アナログを垂直に2本植立し上部構造装着部(S1、S2)とし、それぞれの外側に基準アナログ(R1、R2)を平行に植立した。S1、S2に締結した印象用コーピング間をパターン用レジンで連結し、R1、R2に連結した基準アナログ用コーピングをトレー連結部にネジで固定した。基準模型をパラフィンワックス1枚でリリースし、常温重合レジンでオープントレーを製作した。

恒温恒湿室中で印象採得および作業用模型の製作を行った。低硬度印象材による印象採得ではエグザミックスファイン・インジェクションタイプをアナログ周囲に注入した後、個人トレーに盛り上げ、基準模型に圧接した。高硬度印象材による印象採得では臨床術式に準じてアナログ周囲の基準模型面に少量のエグザミックスファイン・インジェクションタイプをシリンジで注入

: 申請者のチェック欄

: 指導教員のチェック欄

1. A4 版用紙に 25 字×30 行, フォントは明朝体, 12 ポイントである。
2. 専門用語以外は当用漢字, 新かなづかいで口語体を用いている。
3. 句読点は「, 」と「。」を用いている。
4. 英文の場合, A4 版用紙にフォントは Times New Roman, 12 ポイント, 30 行である。
5. 透明なカバーを付けて製本された 24 部が用意されている。
6. 論文の構成は次の順番になっている。
表紙, 英文抄録, 和文抄録, 緒言, 材料および方法, 結果, 考察, 結論, 文献, 図表の解説, 図表
* : 謝辞・学会発表の記録・研究費の出所などの記載を必要とする場合は, 「結論」と「文献」の間に入れて下さい。また, 英語論文の場合も和文抄録は必ず付けて下さい。
7. 表紙, 図表の解説, 図表を除いて, 通しのページ番号が下部中央に入っている。
8. 表紙に次のことが記載されている。
日本語論文の場合
和文タイトル, 和文著者名(申請者のみ), 和文所属名(申請者の所属のみ),
和文指導教員名, 英文タイトル, 英文著者名(申請者のみ),
英文所属名(申請者の所属のみ), 英文指導教員名
英語論文の場合
英文タイトル, 英文著者名(申請者のみ), 英文所属名(申請者の所属のみ),
英文指導教員名, 和文タイトル, 和文著者名(申請者のみ),
和文所属名(申請者の所属のみ), 和文指導教員名
9. 英文はネイティブの歯学・医学系研究者, あるいはこれと同等以上に英文作成能力を有する者の校正を受けている。
10. 使用した専門用語とその略称は, 関連学会で広く用いられている表記である。
11. 謝辞に記載された人名は, 本人の了解を得ている。
12. 文献は, 引用箇所の上に引用順に番号を付けている。
13. 文献番号の表記と引用の書式は, 奥羽大学歯学誌の「引用文献書式」に従って記載されている。
14. 文献の著者名, 表題, 雑誌(単行本)名, 巻数, 引用ページ, 出版年などは正確である。
15. 倫理審査を必要とする研究は, 倫理審査委員会の承認を受けたことを記載している。
16. 動物実験を行った研究は, 動物実験委員会の承認を受けたことを記載している。
17. 組み換え DNA 実験を行った研究は, 組み換え DNA 実験安全委員会の承認を受けたことを記載している。
18. 利益相反に関することがある場合は, そのことを記載している。
19. 申請者と指導教員は, 本論文を提出前に繰り返し読み直している。

以上相違ありません。

平成 30 年 1 月 16 日

申請者(署名) 作間 健彦



指導教員(署名) 山森 徹

